# 第３回大山ダムモニタリング部会　議事内容

日　　時：平成23年12月20日（火）13:30～17:00
場　　所：独立行政法人水資源機構大山ダム建設所会議室及び大山ダム建設事業実施箇所
出席委員：小野充之、小野孝、神川建彦、吉良今朝芳、古賀憲一、佐々木茂美、佐藤仁藏、白石哲、平野宗夫（五十音順、敬称略）9名

## １．平成23年度大山ダムモニタリング調査結果

平成23年度大山ダムモニタリング調査結果について事務局から報告があり、委員から以下の意見が出された。

(1) 貯水池の水質の経時図については、調査時期が明確になるように、折線だけではなく、マークも表示するとよい。
(2) 貯水池の水質については、透明度についても整理すること。
(3) 放流水質という表現は、誤解を招くため、適切な表現に改めること。
(4) 流入水バイパスの効果の検証については、流入水バイパスを運用している現状と流入水バイパスが無かった場合とを比較するとよい。
(5) 下流河川の環境等にダムの影響が出現するには長時間かかると思われるため、現時点ではまだ影響の有無を明確に評価するのは無理である。

## ２．平成24年度大山ダムモニタリング調査計画

平成24年度大山ダムモニタリング調査計画（案）について事務局から提示があり、委員から以下の意見が出された。

(1) 貯水池の水質状況の分析にあたっては、周辺の他ダムの情報も活用することが望ましい。
(2) 貯水池の水質の変化を把握するために、貯水池の状況を日報で整理するとよい。
(3) オオムラサキについては、幼虫の生息状況調査だけではなく、成虫の生息状況調査及び成虫が吸う樹液の出るクヌギの調査の実施を検討すること。
(4) 貯水池内の生物について、ユスリカの発生など、これまでに無かった現象が生じた場合には、可能な限り記録を残しておくこと。また、外来魚が放流されないように対策を講じる必要がある。
(5) 水源地域動態調査については、平成23年度の調査結果よりさらに詳細な整理が必要であるため、平成24年度も継続して行うこととし、農林業の状況、交流人口などについても整理すること。
(6) ダムの見学会やイベント等の状況については、日時や参加者数等を一覧表で取りまとめるとともに、アンケート結果を整理しておくとよい。

以　上